



センターから秋をお届けします

## コロナ禍でも「新しい生活様式」で、「活発な授業研究」が行われています！

2 学期から各学校において、コロナ感染予防のための新しい生活様式に配慮しながら、須賀川市学校教育アドバイザーの村瀬先生、永島先生をはじめとする多くの外部講師を招へいするなどして、活発な授業研究が行われています。村瀬先生には、今月の「みち」にも登場していただきました。



むすめ 画

### 「授業研究で拓く支持的風土」

村瀬公胤

ある県で私が長く関わってきた小学校のお話です。新しく赴任された養護教諭に本校の印象を聞いてみると、「この学校は、子どもたちがやさしいですね」と言いながら、こんなエピソードを教えてくださいました。「ケガや病気でもなく、保健室に行きたいお子さんっているのですが、これまでの学校では、周りの子が『先生、〇〇さんはどこもわるくないのに、保健室に行ってます』と言ったりすることが多々ありました。ところが本校の子どもたちは、『胸が苦しいとか、気持ちがモヤモヤするとか、そういうときでも保健室に行っていいたよ。いっしょについていってあげようか』と言いながら、保健室に来るのです。」

この学校は、とくに道德の研究指定校などではありません。むしろ以前は、地域でも有名な困難校でした。そこから、ただひたすらに「先生が教える授業から子どもが学ぶ授業へ」と改革に挑戦しながら、子どもたちの学びの姿を受けとめる学校に変わっていった歴史があります。その延長上に、上のエピソードがあるのだと、私もまた学ばせていただきました。

### 支持的風土とは・・・

失敗や間違いが気持ちよく受け入れられる環境

どの子どもにとっても居心地がよい環境

学び合いのある環境



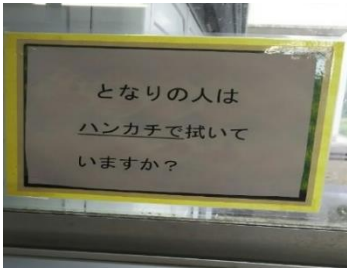
子どもたちにとって、失敗や間違いが気持ちよく受け入れられる環境、どの子どもにとっても居心地がよい環境であるには、教室において子どもたちが自己存在感や充実感を味わい、安心感の持てる場であればなりません。文部科学省は、いじめや不登校の問題が増えてきた時期から、保健室は、救急処置だけの部屋でなく、心身が元気のない子どもたちにとっての癒しの場「心の居場所」としての機能を果たしていくようにと示しました。保健室は、従来からその機能は果たしてきていますが、学校の中でどの子どもたちにとっても居心地の良い環境となる場所「心の居場所」は、まずは教室であるべきだと考えます。どの子ども安心できる教室環境を作っていくにはどうすればいいのでしょうか。環境の整備というと、どちらかというところハード面を整えていけばいいことが多いですが、「安心できる」という教室環境は、物理的な整備だけではできなく、心に働きかける教育による醸成という形で整備していくことだと考えます。

『養護教諭による子どもの「学び」支援に関する一考察（福島大学総合教育研究センター紀要 8 号）』の中で、子どもたちに「学校で嬉しいとか、楽しいと感じる時はどんな時か？」との質問の回答結果として、「勉強が分かったりテストの点数が良かったりした時」45%「先生に勉強のことでほめられた時」27%で、学校生活の授業の中での場面が72%と勉強に対しての思いや願いが高いことが示されています。どの子どもたちにとっても学校、教室が楽しいと感じ、居心地がよく安心感が持てる環境、支持的風土づくりとは、今須賀川市の各学校で進められている、「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり」での学び合いではないでしょうか。

## 行動経済学「ナッジ理論」を使ったコロナ予防対策！！

ナッジ (nudge) とは、「ヒジで軽く突く」という意味で、2017年にノーベル経済学賞を受賞したシカゴ大学のリチャード・セイラー教授が証明した理論です。強制力がなくてもちょっとした「ヒジつき」で人間の行動は変えられることができるという理論です。

9月から11月にかけて、養護教諭支援事業で各学校を訪問させていただきました。どの学校においても工夫をしてコロナの予防対策に取り組んでいることが分かりました。その中から行動経済学を取り入れて、効果が上がった取り組み等についていくつか紹介をします。



「手を洗いましょう！」のポスターの時より手を洗う生徒が激増したとのことでした。



ソーシャルディスタンスをとるための「ナッジ理論」を活用した仕掛けがありました。密になることなく、距離を保って手洗いができているとのことでした。



従来の水道のひねり型の取っ手を取り除き、レバー型に全校すべての水道に取り付けてありました。水を出したり止めたりする時にあまり触ることなくできます。



左は、図書館で本を探したり借りたりする時に密にならないように動線が示されていました。右は、本を借りる時のカウンターにも直接やりとりがしなくてもいいように工夫されていました。



ソーシャルディスタンスを取るための適切な距離について、ひもの長さが感覚として身につくように掲示されていました。

保健室で体調不良者の対応をする際に、感染防止の視点から内科と外科を分けるために、ビニールカーテンが取り付けられていました。



校外学習などで教室を離れる行事の時の手指消毒用携帯アルコールが全校生徒分準備してあります。その都度保健室から借りて各自で使用します。

使用済みのティッシュを直接ゴミ箱に捨てないで、各自袋に入れて始末するようにします。ビニール袋が学級に準備してありました。



これから冬にかけて、コロナだけでなくインフルエンザの流行も心配されます。どの学校においても、感染症対策への配慮がなされていました。後は、その人のもつ抵抗力・免疫力を高めていくだけです。↑↑